

23 Jul. 2008



第34号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒162-0842 東京都新宿区

市谷砂土原町 1-2-34KSKビル3F

編集：JAAGA事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

ホームページ：http://www.jaaga.jp/

## 最近の動き

総会



General Assenbly, JAAGA

懇親会



Reception, JAAGA

在日米軍兼第5空軍司令官交代式



Lt. Gen. Wright returns the flag to Adm. Keating

日米隊員表彰式



JAAGA Award in Misawa

## JAAGA会長交代

### 遠竹新会長 就任挨拶



New President Tohtake

5月13日の総会において、新たにJAAGA会長に選任されました遠竹です。これまで、会員の皆様が育ててこられたこのJAAGAの運営に精一杯努めさせていただきましたのでよろしくお願いいたします。JAAGAは、航空自衛隊と米空軍の相互理解及び友好親善の増進に寄与する事業を推進し、日米両国の信頼関係の向上に貢献することを目的としております。発足して既に12年目に入っておりますが、会員の皆様のご尽力で今の姿かたちとなり、その実績は着実に上がってまいりました。日米両国は、その同盟の関係強化のためにさまざまな分野で力を注いでいるわけですが、時の移り変わりに拘らず、その中核として必要なものは、軍同士の間で結ばれた絆であり、自衛隊と米軍の絆であると思います。JAAGAは、航空自衛隊と米空軍の信頼性向

上のために貢献すべく、今後とも、努力してまいりたいと思います。この会は、航空自衛隊OBからなる正会員、個人及び法人の賛助会員の皆様のご理解、ご協力により運営されております。今後とも会員皆様の絶大なるお力添えをいただきますようよろしくお願いいたします。

(第6代会長 遠竹 郁夫、元航空幕僚長)

## 竹河内前会長 退任挨拶



Former President Takegouchi

2年前に第5代会長として選任されまして、勤めてまいりましたが、これまで、関係の皆様から頂いたご理解・ご協力に対しまして、心より感謝申し上げます。特に、この2年間、常務役員の皆様には大変ご活躍、ご協力頂いたことに改めてここで感謝の意を申したいと思う次第であります。今後は、益々JAAGAの活動が有意義となりますよう祈念しまして、引き続き側面から支援・協力してまいりたいと思います。重ねて、大変有難うございました。

(第5代会長 竹河内 捷次、元統合幕僚会議議長)

## 在日米軍司令官交代、ライト中將からライス中將へ



Lt. Gen. Rice accepts the flag from Gen. Chandler

平成20年2月25日(月)、在日米軍司令官兼第5空軍司令官の指揮権がブルース A. ライト中將からエドワード A. ライス Jr.中將に委譲された。式典は快晴の横田基地で行われ、執行官監督官の太平洋軍司令官キーティング海軍大将、太平洋空軍司令官チャンドラー空軍大将の訓示の後、ライト中將がスピーチした。ライト中將は、テロとの戦いなど3年間にわたる勤務を総括し、日米同盟の強化、日米友好関係の構築に力を尽くした人々や部下、そして家族への感謝と、米軍勤務35年の中での通算3回、9年間にわたる日本勤務で培われた自衛隊との友情に対する感謝を述べた。その後、指揮官旗の受け渡しが行われ、新司令官ライス中將のスピーチが行

われた。ライス中將は前任者を称え、日米両国のみならずアジア太平洋地域にとって日米同盟が今ほど重要な時はなく、これほどチャレンジングな任務は無いと抱負を述べた。ライス中將は、1978年、米空軍士官学校卒業の爆撃機パイロット出身で、B-1B、B-52G/H、E-3、B-2、KC-135等、3,800時間以上の飛行経験がある。不朽の自由作戦では初期の4ヶ月間、第28遠征航空団司令として爆撃作戦の指揮を執った。前職は太平洋空軍副司令官であり、初めての日本勤務となる。横田着任時に中將に昇任。

ライト中將はこの職を最後に退役となることから、指揮権交代式に先立ち、ライト中將の退官式が執行監督官チャンドラー米太平洋空軍司令官により執り行われた。ライト中將は、日本語を交えて自衛隊メンバーとの心の交流ができたことなどに感謝の意を表した。両式典に、自衛隊からは斎藤統合幕僚長、田母神航空幕僚長他多くの部隊指揮官・幕僚が、JAAGAからは、顧問、会長、副会長、理事長他関係理事が参加したほか、個人会員、賛助会員も参加した。

(高橋理事(広報)記)

## 平成20年度JAAGA年次総会



General Assembly. JAAGA

【総会】 冒頭、故江口賢造会員、故尾坪祐三会員、故田村秀昭会員の3名のご冥福を祈り、黙祷が行われた。総会は15:00から16:15の間、正会員63名が参加して行われた。

竹河内会長が総会参加への謝辞を述べた後、「JAAGAは、見返りを求めない奉仕の精神で活動を行うとともに、米空軍と空自の空に働く者同士の絆を深めるという趣旨でこれまで活動してきました。お蔭様で昨今その活動も拡大してきて、賛助会員が伸びてきています。これは、JAAGAの趣旨が一般の方にも了解されてきたということです。特に、私どもとして嬉しいのは、米軍の方からJAAGAの活動に対して高い評価を頂いておるということです。そのことが賛助会員を増やす要因にもなっていると思っています。米軍研修に行ったときなどに米軍が良くやってくれるということ、賛助会員は良く見えます。それなら他の人にも入ってもらおうということで増えています。日米両空軍の友好親善という、所謂、狭い分野での活動ではございますが、日米安全保障体制の信頼性向上の一助になるものと信じて我々はやっております。そのためには、直接、会員の皆様の支援、協力が必要だと思っておりますので、今後よろしくお願いいたします。」と挨拶を行った。

「本総会は出席者・委任状提出者の合計が正会員の3分の1以上であり、総会成立に必要な条件を満たしています。」と司会から報告があり、第1号から第4号までの議案審議が開始された。平成19年度事業報告、同決算報告及び監査報告並びに平成20年度事業計画及び同予算に関する各々の議案について担当理事から説明があり、いずれも提案通り承認された。

途中、会員から「会勢の拡張には、画期的なことも考える必要があるのではないかと。減ってきているのを憂慮している。」「使命感だけでは人は集まらない。参画意識を持てる行事等をやって欲しい。」等の発言があり、会長からは、「会勢拡大に努力している。活動が弱体化するのを容認するわけにはいかない。会勢拡大に知恵を出していきたい。」旨の回答があった。

第5号議案として、「正会員の年会費の一部改正」及び「会則の一部改正」が審議された。正会員の確保維持のため、長期在籍会員の年会費の減額により退会を抑制し、これまでの功績に敬意を払うということから、「年会費を7回以上納入した会員の会費は4,000円とし、施行は平成21年度からとする。」ことが承認され、来年度総会で会則改正が審議されることとなった。

また、昨年度、JAAGA発足10年を機に、種々の状況の変化や事業実施の教訓を会則に反映させるための改正を行ったが、1年間の施行を経て、更に整理するため、「会則の一部改正」が審議され、提案どおり承認された。

第6号議案として、役員を選任が行われ、新年度の役員として、会長に遠竹郁夫、副会長に清水正睦、森和彦、越智通隆、監事に橋本康夫、高島秀雄、新任理事に小川剛義、岡村雄司、高杉直明、そして三

沢支部役員に小澤満昭、山本親男、沖縄支部役員に石津靖、名富忠夫の各氏が選出された。

ここで竹河内前会長から退任の挨拶が、遠竹新会長から就任の挨拶がそれぞれ行われた。その後、新会長の下で残余の議案の審議が継続された。

また、新しい理事長、副理事長及び理事が選任され、会長からの委嘱が承認された。新顧問の委嘱も同時に承認された。続いて新役員の紹介と退任する役員の紹介があった。(第1号議案から第7号議案の詳細は、17ページから27ページのとおり。)



JAAGA Lecture

【講演会】 講演会は16:30から、約1時間半、正会員、賛助会員(個人、法人)及び招待者約200名が参加して行われた。講師は在日米軍司令官兼第5空軍司令官エドワード A. ライス Jr. 中将であり、The Professional Airman「プロフェッショナル・エアマン」と題し熱意溢れる講演が行われた。

講師の経歴が司会から紹介された後、講師は、「本日こうしてJAAGAの皆さんと一緒に過ごすことができ、様々な議論ができますことを嬉しく思います。今日の日を楽しみにしていました。」と挨拶され、米空軍の中でどのようなことが起こっているか、米空軍の現状、将来に向かっての軍改革・変革への検討状況などについて話を展開された。その後、30分ほど、質疑応答の時間となり、会員の質問に対して講師は丁寧に回答されていた。

(講演の内容は、5ページから7ページのとおり。)

【懇親会】 懇親会は18:00から約2時間、約230名が参加して行われた。佐藤正久国会議員、田母神敏雄航空幕僚長、防衛省防衛政策局長、航空幕僚監部・航空自衛隊各部隊の代表等、また米国側からは、ライス5空軍司令官ご夫妻等米空軍関係者、在日米国外使館公使等、そして、JANAFPA(日米ネービ友好協会)会長、新生つばさ会会長等、多数の招待者と来賓を仰ぎ、盛大な懇親会となった。会は、主催者である遠竹会長の就任挨拶を兼ねた開会の挨拶から始まった。



Reception

続いて、来賓を代表して田母神敏雄航空幕僚長、ライス第5空軍司令官、そして、佐藤正久国会議員から、それぞれ、ユーモアに溢れたご祝辞を戴いた。杉山蕃新生つばさ会会長の音頭で乾杯が行われ、懇親の会が始まった。通訳を介した挨拶等であったため、乾杯まで30分を超えたが、アルコールが入ると懇親の雰囲気は一気に盛り上がった。多数の招待者、賛助会員を含め、華やかで和気あいの懇親会となり、ライス第5空軍司令官ご夫妻、米軍関係者を中心とした歓談の輪が随所にでき、また、先輩と後輩との旧交を温めるなど、時間の流れを忘れてしまうほどの盛り上がりを見せた。清水副会長の乾杯の音頭により会は締め括られ、余韻を残しながら懇親会は終了となった。こうして平成20年度年次総会・講演会・懇親会は、成功裏にその幕を閉じた。

(源理事記)

## The Professional Airman

by Lt. Gen. Edward A. Rice Jr.  
at JAAGA lecture on 13 May 2008

I believe that part of the strength of the military alliance between the United States and Japan results from an understanding of, and appreciation for, the similarities and differences between our military cultures, doctrines, strategies and procedures. To this end, I thought it might be useful to talk tonight about the current thinking in the U.S. Air Force with respect to the current environment and how we are working to position ourselves for the future. Time will only permit me to present the general outlines of our thinking, but I would be happy to go into more depth on any issues that might be of interest to you during the question and answer period.



There are four words that best capture what I will discuss this evening: ends, means, ways and risk. In short, ends are the missions our Nation has asked the United States Air Force to perform as a Service. Means are the resources and capabilities we field to help us accomplish those missions. The ways define how we employ the means, and risk is the gap between means, ways and ends.

The essence of our strategy is to use required means in innovative ways to attain the desired ends with acceptable risk. We believe we will succeed in the 21st Century only if we close the gap between ends and means.

Let me begin by discussing what we must be able to accomplish as an Air Force.

As we look to the future, we believe the strategic environment will be shaped by 1) the interaction of globalization, economic disparities, and competition for resources; 2) diffusion of technology and information networks whose very nature allows unprecedented ability to harm and, potentially, paralyze advanced nations; and 3) systemic upheavals impacting state and non-state actors and, thereby, international institutions and the world order.

The following are some of the significant features of this increasingly complex, dynamic, lethal and uncertain environment.

- Violent extremism and ethnic strife-this will be a global, generational, ideological struggle
- Proliferation of weapons of mass destruction and empowering technologies
- Rising peer competitors
- Predatory and unpredictable regional actors
- Increasing lethality and risk of intrusion by terrorist and criminal organizations
- Systemic instability in key regions (political, economic, social, ideological)
- Unprecedented velocity of technological change and military adaptation
- Availability of advanced weapons in a growing global marketplace
- Exponential growth in volume, exchange and access to information
- Surging globalization, interconnectivity and competition for scarce resources
- Dislocating climate, environmental and demographic trends

These features mean that we will likely operate in a future environment that is much different than the one in which we operate today. And while it is very difficult to predict the future, whatever that future environment entails, we must be ready as a Service to operate in it with success. Ready military forces in sufficient numbers are the prerequisite for National security

and the test of professionalism among Airmen is the readiness of our forces, not just for today's challenges, but for tomorrow's as well.

The essence of the National Security Strategy of the United States is to defend the homeland, assure our allies, and dissuade, deter and if necessary, defeat those who choose to become our adversaries. Our emphasis on assurance, deterrence, and dissuasion reflects the conviction that it is far better to convince potential adversaries to refrain from the use of military force than to have to defeat them after they have initiated conflict. Our success will be measured by conflicts averted as well as conflicts fought and won.

The mission of the United States Air Force in support of this national strategy is to deliver sovereign options for the defense of the United States of America and its global interests—to fly, fight, and win in Air, Space, and Cyberspace.

Sovereign options refer to the spectrum of choices that air, space, and cyberspace capabilities offer US policy makers for solving problems. In peacetime, these options include, supporting our international partners, counter-balancing and containing aggressive states; signaling opponents of our commitment to protect our interests; and providing humanitarian aid—to both our allies and potentially hostile populations—to assure them of friendly US intentions.

The U.S. Air Force must be able to deliver these sovereign options across the three domains—air, space, and cyberspace—through which we operate.

As the Nation's premier global, multi-dimensional maneuver force, the Air Force safeguards America by dominating the ultimate vantage of air, space and cyberspace. We provide Global Vigilance, Global Reach and Global Power in and through these domains.

- Global Vigilance is the persistent, world-wide capability to keep an unblinking eye on any entity—to provide warning on capabilities and intentions, as well as identify needs and opportunities.
- Global Reach is the ability to move, supply, or position assets - with unrivaled velocity and precision—anywhere on the planet.
- Global Power is the ability to hold at risk or strike any target, anywhere in the world, and project swift, decisive, precise effects.

Another way to describe this global vigilance, reach and power is that we must be able to see anything that exists on the face of the earth, we must be able to fix its location, we must be able to supply it, support it, rescue it, deny it, delay it, disrupt it, destroy it; we must be able to assess these effects and we must be able to command and control all of these activities.

Military superiority and freedom of action cannot be taken for granted. To promote and defend America's interests, the Air Force must attain cross-domain dominance—freedom to attack and freedom from attack in and through the atmosphere, space and the electromagnetic spectrum. Cross-domain dominance transforms operational concepts and integrates systems, capabilities and operations to gain competitive advantage through rapid, simultaneous, lethal and non-lethal effects. This, in turn, grants joint freedom of maneuver in all warfighting domains: land, sea, air, space, and cyberspace. Without our ability to present this spectrum of capabilities to the joint team in peace, crisis and war, national security would be at risk.

History is replete with examples of militaries that failed due to their inability to transform organizations and culture, adopt new operational concepts, or leverage breakthrough technologies. These failures were caused by systemic problems that fall into three categories: failure to anticipate, failure to learn and failure to adapt. In contrast, victory comes to those who foresee, recognize and act on changes in the strategic environment. To succeed—indeed, to avoid catastrophic failure—we must redefine the U.S. Air Force for the 21st Century.

Today's confluence of global trends already foreshadows significant challenges to our organization, systems, concepts, and doctrine. We are at a strategic turning point demanding a comprehensive revolution. The future will be shaped by the interaction of globalization, economic disparities and competition for resources; diffusion of technology and information networks whose very nature allows unprecedented ability to harm and, potentially, paralyze advanced nations; and

systemic upheavals impacting state and non-state actors.

These global dynamics are intertwined with the changing character of 21st Century warfare. Having experienced or witnessed the cost of challenging the U.S. head-on, would-be adversaries are developing asymmetric approaches to attack vital levers of U.S. power. Their strategies seek to circumvent our core advantages, while undermining international support and domestic resolve. Ascendant powers are seeking advanced technologies to contest U.S. superiority in air, space and cyberspace. Even if we continue to successfully dissuade and deter major competitors, their advanced equipment is proliferating worldwide.

The Air Force has aggressively pursued air dominance through focused, sizable investment in Airmen, aircraft, weapons, training and essential support structure. These are the means that I discussed earlier. The investment has paid off; no U.S. ground forces have been attacked from the air since 1953, and there are numerous examples in recent years of airpower being decisive in U.S. military operations. However, the advantages that accrue from air dominance can no longer be taken for granted. From this point forward, the Air Force will be challenged not only in the air, but in and through space and cyberspace as well.

Innovation, flexibility and integration are the hallmarks of all successful strategies. Airmen must develop creative solutions-ways-to gain and maintain superiority in air, space and cyberspace, exploiting the synergies of cross-domain dominance to attain a quantum leap in mission effectiveness. We must focus on the warfighting mission; implement advanced operational concepts to fly, fight and win in all domains; leverage game-changing technologies; and recapitalize our aging equipment.

Strategic risk can mount through the accumulation of shortfalls in recapitalization and modernization, and stale operational concepts. Recapitalization is about more than replacing aging aircraft; it is about ensuring the combat effectiveness of all air, space and cyberspace forces. The success of the Air Force and the joint team depends upon the ability of our people and organizations to anticipate, learn and adapt.

Complacency breeds failure. The character, tempo and velocity of modern warfare already severely test our ability to adapt. We must learn from history; the Air Force's legacy defines our role in the American way of war-to risk the lives of Airmen to kick down the opponent's door so thousands need not die.

The Air Force is often first to the fight and last to leave. We give unique options-prompt, persistent, decisive air, space and cyberspace effects-to all Joint Force Commanders. Therefore, redefining the Air Force for the 21st Century is an urgent national security requirement-not a luxury we can defer. The Air Force must safeguard our ability to provide Global Vigilance, Reach and Power. In other words, to see anything on the face of the earth; range it; observe or hold it at risk; supply, rescue, support or destroy it; assess the effects; and exercise global command and control of all these activities.

Rising to the 21st Century challenge is not a choice, it is our responsibility; a responsibility we must successfully fulfill.

As we continue our close association with the members of the Japan Air Self Defense Force, you will see the results of our focus on revitalizing our means and developing innovative ways to achieve the ends our Nation has given us within acceptable risk. This will result in a stronger defense of Japan, greater deterrence of potential adversaries and a more stable global security environment.

I look forward to your questions about this, or any other topic you choose.

# 平成19年度日米優秀隊員表彰

## 被表彰者の功績等

区分	所属部隊	被受賞者	功績の概要
空自	第6高射群 (三沢)	空曹長 仁和 良一 	<ul style="list-style-type: none"> <li>19年度三沢基地准曹会会長として米軍三沢基地下士官等との交流を積極的に推進し、日米間の相互理解と信頼関係を促進した。</li> <li>三沢基地綱引き大会等の日米交流行事に積極的に参画し、日米間の調整・実行に貢献するとともに、空自准曹士隊員及び米下士官等とその家族間の親睦を図った。</li> </ul>
	航空保安管制群 飛行情報隊 (府中)	2等空曹 前田 誠 	<ul style="list-style-type: none"> <li>関東スペシャルオリンピック、横田ストライダーズ駅伝大会の実施を積極的に支援し、日米友好親善に貢献した。</li> <li>横田TOP3や横田基地と府中基地が協力して実施する英会話・日本語教室へ参加した。</li> </ul>
	中警団司令部 (入間)	准空尉 小竹 康博 	<ul style="list-style-type: none"> <li>入間基地代表准曹士先任として、在日米軍司令官付及び374輸送航空団司令付先任下士官との交流を深め、日米下士官相互の相互理解と信頼関係の向上に貢献した。</li> <li>19年度日米下士官相互部隊研修における横田基地下士官の受け入れ業務等を円滑に実施し、日米の友好親善促進に寄与した。</li> </ul>
	航空保安管制群 那覇管制隊 (那覇)	空曹長 大城 直志 	<ul style="list-style-type: none"> <li>横田、嘉手納、普天間、三沢及び岩国ベースオペレーションとの運航情報取り扱いに関する調整、情報交換を適切に実施するとともに、米軍との飛行管理情報処理システムの換装に際しては、在沖縄米軍BOPSとの協定書の見直し等を積極的に実施し、日米の円滑な任務遂行に貢献した。</li> <li>各種日米交流行事を企画運営し、日米友好親善の促進に寄与した。</li> </ul>
米軍	35th Fighter Wing (三沢)	Maj. Michael B. Birdwell 	<ul style="list-style-type: none"> <li>米空軍情報将校として航空自衛隊情報部隊との共同情報活動に関わる訓練、教育を積極的に推進すると共に、三沢基地における日米情報関係者による四半期ごとの情報交換会議を主体的に設定し、日米情報活動の概要に関する相互理解を促進した。</li> <li>各種スポーツ等の日米交流行事を積極的に調整・推進し、在三沢日米情報部隊の協力・連携態勢の構築に貢献した。</li> </ul>
	374th Airlift Wing (横田)	MSgt. Joseph R. Hudson 	<ul style="list-style-type: none"> <li>永年に亘り米空軍下士官及び空自准曹士隊員による各種日米交流行事を積極的に企画実行される等航空自衛隊と米空軍との相互交流の促進に貢献した。</li> <li>府中基地隊員202名に対する英会話能力向上に尽力した。</li> <li>横田、静浜、入間、浜松及び百里の隊員319名による横田基地研修の受け入れ業務を担当・米軍下士官及び空自准曹士隊員59名による相互部隊研修の実施に貢献した。</li> </ul>
	18th Wing (嘉手納)	SMSGt. Kenneth Trawick 	<ul style="list-style-type: none"> <li>永年に亘り米空軍下士官及び空自准曹士隊員による各種日米交流行事を積極的に企画・実行される等航空自衛隊と米空軍との相互交流の促進に貢献した。</li> <li>海外任務に当たる空自那覇基地隊員245名に対する英会話能力向上に尽力した。</li> <li>数度に亘る米下士官及び空自准曹士隊員による相互部隊研修の実施に伴う日米調整を実施した。</li> <li>嘉手納先任下士官と那覇准曹士先任により構成する初めての協議会の設立・開催に貢献した。</li> </ul>



## 空自那覇基地での表彰式



JAAGA Award in Okinawa

平成20年2月8日（金）、平成19年度沖縄地区JAAGA表彰行事が航空自衛隊那覇基地において実施された。本表彰行事は、従来、米空軍嘉手納基地で実施される年度優秀隊員表彰式に併せて実施してきたが、平成10年度に開始されて以来第10回目となる今回は、新たな試みとして、初めて航空自衛隊の施設で実施することとなった。

表彰式及び懇親祝賀会は、那覇基地の隊員クラブ「ブルー・コーラル」において、当日17時から開催された。嘉手納基地から参加した米空軍8名は、JAAGA表彰行事に先立って那覇基地を見学し、F-4部隊、ペトリオット部隊の訪問を楽しんだとのことであった。表彰行事は、南混団司令山川空将、83空隊司令兼那覇基地司令半澤空将補以下15名の空自関係者、第18航空団司令ウィリアムズ准将以下8名の米空軍関係者、沖縄県防衛協会会長代理仲本興成氏、那覇基地協力会会長安里政芳氏他5名の基地周辺協力者、そして、竹河内会長以下5名のJAAGA会員を含めた総勢35名で実施された。南西航空音楽隊による日米国歌の演奏の後、竹河内JAAGA会長は挨拶において、日米同盟の重要性とJAAGA活動の意義、そして関係者の皆様、特に那覇基地による積極的な協力、支援に対する感謝の言葉を述べた。

今年度の空自側被表彰者は、那覇管制隊で飛行管理員の大城直志空曹長であった。

また米空軍側の被表彰者は、米空軍スマート・オペレーション21（米空軍の効率的運用の追求に関するプロジェクト）のプロセス・マネージャのケニス・トラウィック先任曹長であった。

日米2名の被表彰者に対しては、竹河内会長から表彰状と記念楯が授与された。そして、ウィリアムズ司令、半澤基地司令からは、被表彰者を誇りに思う気持ちとともに、日米の友好親善と信頼関係の促進を願い、JAAGA表彰行事の今後の発展を祈念する旨の祝辞があった。

表彰式後の懇親祝賀会は、那覇基地に所属する女性隊員5名による「かぎやで風」（喜びと歓迎を表す）琉球舞踊と仲本興成氏による「喜利（カーリー）」（慶賀を祈念する言葉）という沖縄風の音頭による乾杯によって始まり、途中、被表彰者を称え、益々の日米友好親善を祈念しての「鏡割り」、那覇救難隊営家2空尉以下10名による「和太鼓の演奏」が催され、沖縄、日本ムード満載の楽しく華やかな祝宴となった。日米の被表彰者からは、今回の受賞を誇りに思い、上司、同僚そして奥様に感謝するとの挨拶があった。そして最後は、石津沖縄支部長の音頭による乾杯が実施され、平成19年度沖縄地区JAAGA表彰行事は、有意義かつ楽しい雰囲気の中で幕が閉じられた。

（香川理事記）

## 空自三沢基地での表彰式



JAAGA Award in Misawa

平成20年2月15日（金）、平成19年度三沢地区JAAGA表彰行事が航空自衛隊三沢基地において実施された。本表彰行事は、従来、米空軍三沢基地における年度優秀隊員表彰式に併せて実施してきた。今回は、平成10年度に開始されて以来10回目であり、新たな試みとして、初めて航空自衛隊の施設で実施することとなった。

表彰行事は、厳冬期を迎えて小雪の舞い散る中、17時から三沢基地隊員クラブ「おがわら」において開催された。行事参加者は、北空司令官入澤空将、3空団司令兼三沢基地司令若林空将補以下12名の空自関係者、35戦闘航空団司令オショーンネシ大佐以下9名の米空軍関係者、三沢市自衛隊協力会山本昭三会長、三沢基地協力団体であるヴォリューム会会長代理佐々木清理事以下5名の基地周辺協力者、そして、大串副会長以下4名のJAAGA会員を含めた総勢30名であった。北部航空方面隊音楽隊5名による日米国歌の演奏の後、大串副会長は、その挨拶の中で、現役時、累計7年間3度の三沢勤務の中で培ってきた日米同盟の重要性、そしてJAAGA活動の意義、日米関係者、特に三沢基地の積極的な協力、支援に対する感謝の言葉を述べた。

今年度の空自側の被表彰者は、第6高射群本部で衛生係として勤務する一方、平成19年度三沢基地准

曹会会長の仁和良一曹長であった。また米空軍側の被表彰者は、第35作戦支援群の情報将校のマイケルB. バードウエル少佐であった。

日米被表彰者に対して、大串副会長から表彰状と記念楯が授与された。そして、オショーンネシ司令、若林基地司令からは、被表彰者に対する祝意とともに、日米制服同士の相互理解、信頼関係促進の重要性、JAAGA活動への期待等についての祝辞があった。

表彰式後、山本三沢市自衛隊協力会会長により、「JAAGAの具体的なイメージを把握する良い機会となった。」との挨拶とともに乾杯の音頭が取られ、和気あいあいの雰囲気の中に懇親祝賀会が始まった。その後、日米の両被表彰者からご挨拶があり、今回の受賞を大変誇りに思うとともに、上司、同僚等、基地所在隊員皆様のお陰との言葉があった。中でも、本年4月に帰国予定のバードウエル少佐の挨拶は、奥様の通訳を伴いながら実施され、約2年間の三沢基地勤務で、多くの日本の友人を得、情報活動における日米共同の実を挙げることが出来たことを誇りに思い感謝するとの気持ちが述べられ、大変印象的なものとなった。こうして、平成19年度三沢地区JAAGA表彰行事は、有意義で楽しい雰囲気の中で幕が閉じられた。

(香川理事記)

## 米軍横田基地での表彰式



JAAGA Award in Yokota

平成19年度JAAGA優秀隊員表彰が、平成20年2月16日（土）、米空軍横田基地の年度優秀隊員表彰式において実施された。表彰式は、横田基地下士官クラブで夕刻6時からのカクテル・タイムで始まった。第374空輸航空団司令のニューエル大佐以下約300名の参加者は礼装を着用し、多くは夫人を伴って列席された。JAAGAから山口副会長以下3名が参加し、航空自衛隊の府中基地から被表彰者、上司の飛行情報隊総括班長楠田1尉、同群准曹士先任平野曹長、同僚佐々木2曹が、また入間基地から被表彰者及び同夫人、上司の中警団司令廣中将補及び同夫人の計11名が出席した。

表彰晩餐会は、2007年度横田基地優秀隊員候補者71名の紹介で始まった。名前を呼ばれた候補者は所属部隊隊員の大歓声の中、夫人等のエスコートによ

り入場し、着席した。続いて太平洋空軍軍楽隊隊員による日米両国歌の独唱、礼拝、JAAGA会員を含む来賓の紹介、戦争捕虜及び戦場行方不明等で列席出来ない兵士への黙祷等の後、晩餐が始まった。軍楽隊の演奏を聞きながらテーブルを囲み、楽しい会話が弾んだ。晩餐のあと、横田基地の年度優秀隊員表彰に先立ち、JAAGA表彰式が米空軍下士官の司会により開始された。紹介された山口副会長は、表彰式の米側協力に対し謝辞を述べるとともにJAAGAの活動等を紹介し挨拶を行った。その後、壇上において航空自衛隊から2名、米空軍から1名を表彰した。

航空自衛隊の被表彰者は、入間基地の中警団小竹康博准尉と府中基地の飛行情報隊前田誠2曹であった。

米空軍横田基地からは第374空輸航空団のジョセフ R. ハドソン曹長が表彰された。

JAAGA表彰式に続いて米側の年度優秀隊員の発表へと移り、各部隊・機関から最終的に12名の米軍人等が選ばれて表彰された。それぞれの被表彰者は夫人を伴い壇上で紹介を受け、その都度、所属する仲間達から熱烈な祝福を受けていた。晩餐会の最後には、エアーマンとしての10項目にわたる誓いの全員での朗読と、米空軍歌の斉唱により会は終わった。

(岡村理事記)

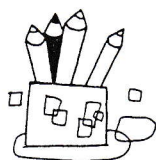
## ☆ 原稿募集 ☆

皆様からのフリーな投稿や、JAAGAの活動に対するご意見やご要望を頂戴し

### 皆様と共に歩むJAAGA

として更なる発展を期していきたいと思います

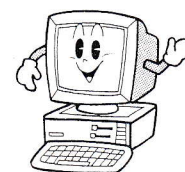
皆様の貴重なご意見や各種投稿をお待ちしています



### 投稿受付

源 外志明 Tel 042-568-7034 (株式会社IHI)

Fax 042-568-7158

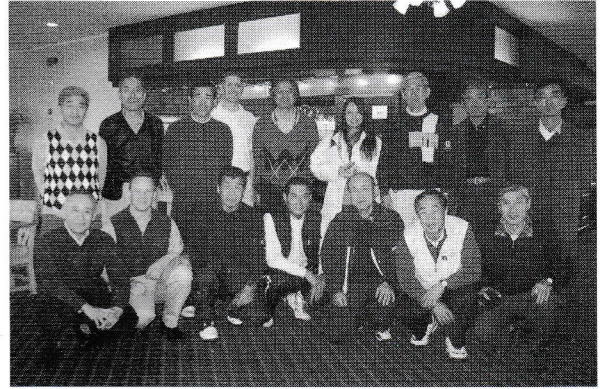


# SPORTEX'07B開催

—雨の中、日米友好の絆を深める—



Meeting after playing



Stuff of SPORTEX'07B

平成20年3月20日(木)、SPORTEX'07Bが米軍多摩ヒルズ・ゴルフ・コースにおいて開催された。航空自衛隊から田母神航空幕僚長以下39名、米空軍から本年2月に就任されたばかりのライス第5空軍司令官以下25名、当協会から竹河内会長以下36名がゴルフ競技に参加し、参加者総数は100名となった。

早朝5時の開門直後から参加者が集まり始めた。ドライビング・レンジでの練習、クラブ・ハウスでの朝食の後、クラブ・ハウス内で開会式が行われた。

開会式冒頭、竹河内会長は大会の趣旨と参加へのお礼を述べた。続いてライス司令官から「米軍を代表して皆さんとゴルフができる事を私達は大変嬉しく思います。サウス・ダコタでゴルフを始めた私にとって今日は良い天気です。大いにチャレンジし、お互いの友好関係を築きましょう。Hit straight and long!」との挨拶があった。続いて田母神空幕長から「ライス司令官が来られて初めてのゴルフでもあり、友好親善第一でプレーしましょう。」との挨拶があり、SPORTEX'07Bは始まった。

前日から降り続く冷たい雨の生憎のコンディションの中、日米混合の27組は各々のスタート・ホールに移動し、7時の合図に一斉にスタートした。参加者は、手袋が濡れ、ボールよりクラブを飛ばしたりと、悪天に苦勞しながらプレーに全力を尽くしていた。コース・コンディションが悪化し、天候の回復

も望めないことから、参加者の健康を考えて9ホールでプレーを終了した。

プレー後の昼食・懇談に続き、表彰式が実施され、優勝野田氏(空白)、準優勝榎氏(会員)、第3位笠原氏(会員)と、20位毎の飛び賞、ブービー賞、ニアピン賞3名、ドラコン賞2名に賞品が贈られた。更に第5空軍司令官、副司令官、横田基地司令、航空幕僚長、JAAGA会長からそれぞれ意味のある番号の順位に特別賞が渡され、多くの賞品授与に歓声が上がった。また、田母神空幕長とライス司令官からは参加者の健闘が讃えられるとともに「良い機会を設定して頂き有難う。第一の目的である新しい友情の構築ができた。」と感謝の言葉が述べられた。

最後に竹河内会長は、「悪天にも拘らず大会の目的は十分に達成した。」と大会を総括するとともに、本大会に積極的に支援して頂いた多摩ヒルズと、運営を支えた米側4名、日本側5名のボランティアに対して感謝の意を表した。悪天のためゴルフ競技は計画通りに実施できなかったが、厳しい環境で一緒に苦勞したことから、より深い友情と友好関係を構築できたものと思われる。固い握手を交わしつつ、雨中のゴルフとして思い出に残るであろうSPORT EX'07Bは終了した。

(原田理事記)

# 日米下士官相互交流を支援



JAAGA supported JASDF-USAF NCOs Exchange program

平成19年度の日米下士官の相互部隊研修は下表の日程で実施された。各基地とも通常の業務研修はもちろんのこと書道、陶芸、茶道等の日本文化の体験や近傍の史跡研修等を通じて相互理解の向上及び友好親善が図られた。JAAGAからの支援品は、それぞれの基地において活用され日米下士官相互部隊研修プログラムの円滑な実施に貢献することができた。

区分	基地名	実施期間	参加者	区分	基地名	実施期間	参加者
米軍→ 空白	岐阜	20年2月28日～ 3月6日	7名(三沢から)	空白→ 米軍	嘉手納	19年7月20日～ 7月26日	7名
	入間	20年3月3日～ 3月10日	10名(横田から)		三沢	20年1月23日～ 2月1日	7名
	那覇	20年3月19日～ 3月27日	6名(嘉手納から)		横田	20年2月4日～ 2月13日	7名

# '08 レッド・フラッグ・アラスカ演習参加を支援

2008年度のレッド・フラッグ・アラスカ(RFA)は、6月5日(木)～6月20日(金)の間、米国アラスカ州アイルソン空軍基地及びエレメンドルフ空軍基地並びに同周辺空域・地域において、日本、米国、ドイツ、英国、韓国等が参加して実施された。

本演習には、2空団飛行群司令岩本1佐を訓練指揮官として、隊員約200名、F-15×6機、E-767×1機、携SAM用追従訓練器材×6セットが参加した。防空戦闘訓練、基地防空訓練がほぼ計画どおり行われ、多大な成果を納めた。

JAAGAは日米エアーマンの相互理解、友好親善の増進のために日米共同訓練の激励を毎年行っている。今年度は、RFA訓練視察官の渡邊南混団副司



Red Flag Alaska 2008 Exercise

令に香川理事から激励品を渡した。激励品は、訓練視察官から訓練指揮官に手渡され、訓練間、日米の交歓に活用された。

(石黒理事記)

## '08関東スペシャル・オリンピックス (横田)



Kanto Special Olympics at Yokota A.B.

平成20年5月17日、18日 横田基地内の中学校運動場ボンク・フィールドで関東スペシャル・オリンピックが開催され、本会からは廣瀬理事長、阪東理事、岡村理事の3名が出席した。

スペシャル・オリンピックは障害者のためのスポーツ競技及びレクリエーション・プログラムとして1968年に協会が設立され、多様なスポーツとレクリエーションを通じて、障害者一人ひとりの自信を高めてもらうことを目的としている。横田基地では1980年下士官団体が関東スペシャル・オリンピックを設立、1984年日本で唯一、国際スペシャル・オリンピック協会が承認する正式団体となった。今年は第29回目の開催である。

17日は五月晴れの中、関東一円から参集した約300名の参加選手、選手をサポートする関係者及びボランティアが開会式に臨み、横田ハイスクールバンドを先頭にスタンドに参集した見学者の手拍子に合わせて入場行進で開会式が始まった。

大会委員長の第374空輸航空団副司令モンゴメリー大佐が「今日は最高の天気にも恵まれました。この大会は選手の皆さんはもちろん、御家族、多くの支援者、ボランティアの力添えで開催されています。選手皆さんは精一杯の成果を発揮され記録更新を目指してください。」と挨拶され、引き続き日米の選手代表が「私達は、勝利を目指して頑張ります。たとえ勝てなくとも、勇気を出して頑張ります。」と宣

誓した。

また、大会委員長から、今までの諸支援に謝意を表すとして感謝状がJAAGAに授与され、廣瀬理事長が記念メダルの埋め込まれた感謝状額を受領した。

14の参加団体代表者が保持する聖火トーチが入場、ゆっくりと競技場を廻って聖火台に到着、開会式の雰囲気は最高潮に盛り上がり、全員見守る中で点火、燃え上がった炎に大きな拍手が沸き起こった。

競技種目は、バスケット、50走、100m走、200m走、400m走、400mリレー、立幅飛び、ボーリング、1マイル走、ソフトボール投げ、水泳等であり、競技の合間にいろいろな余興が実施された。

この大会は1000人以上のボランティアで支えられており、競技場には三宿曹友会、練馬曹友会、朝霞曹友会、府中曹友会、東立川曹友会、大宮曹友会の幟がはためき、自衛隊からは延べ約600人が支援しているとのことであった。空自からは入間基地、府中基地、百里基地から多くの隊員と家族が支援に駆けつけていた。

モンゴメリー大会委員長から、「ボランティア活動の自衛隊皆様の協力なしには大会運営が大変であり、JAAGAの諸々の活動に感謝している」との言葉があり、今後とも相互連絡を緊密にして、協力していくことを話し、会場を後にした。

(岡村理事記)

## ホスト・ファミリーを引き受けて

### ある留学生との出会い

平成19年9月、防衛大学校に短期留学する米空軍士官学校（コロラドスプリングス）の学生をホスト・ファミリーとして引き受けることになった。その日、家内と2人で自宅から3時間近くかけて京浜急行馬堀海岸駅に到着した。学校側の迎えの車に乗り、久しぶりの母校小原台に向かった。

車中から見る景色は今から40年前当時学生だった頃とは一変して、周辺には沢山の住宅が建ち並んでいた。校長室に案内され、2組の夫婦とともに、学校長と歓談の後、ホスト・ファミリーの委嘱を受けた。学校長からは「短期間ですが、学生の滞在間、家族の一員として、日本の文化や生活習慣等を体験できるお手伝いをして頂ければ有難い」とのお話があった。今回、私がホスト・ファミリーを喜んで引き受けたのは、JAAGAからの要請があっただけでなく、20代後半に初めて米国テキサス州の米陸軍防空学校に留学した時や、30代後半に家族とともに、アラバマ州ハンツビル市に赴任した時に、ホスト・ファミリーや地元の友人家族等に大変お世話になり、とても親切にして頂いた経験から、何かの機会に今度は是非その恩返しをしたいと思っていたからである。縁とは面白いもので、丁度、タイから統幕学校に留学していたP大佐のホスト・ファミリーを終えて間もない時期であった。

2回目にS君とお会いしたのは9月最後の週末であった。多摩川の花火大会を一緒に楽しみ、新宿で夕食した後、自宅に戻った。S君は米国のある有名歌手の若い頃を彷彿させる好青年であった。ただ、今時のアメリカの若者（陽気で明るい）と少し違う雰囲気があり、日本語が上手で、しかも物静かで、落ち着いた日本的な青年に見えた。（最近の若い日本人には少なくなっているかも知れない。）翌日、朝から雨となり、あいにくの日曜日となった。「雨の日だけど、どこかに行きたい所がありますか？」と尋ねたら、「昔住んでいた所に行ってみたい。」と彼が即座に答えた。彼が言うままに、雨の中、昔住んでいたという場所へ車で行くことになった。彼は

小学校3年生頃までの約6年間、S市に住んでいた。日本に来た時には、是非、昔住んでいた場所と小学校を訪れたいと長年思っていたらしい。ただ、昔のことなので、記憶もはっきりしてなく「S市にある住居」と「S市にある小学校」を唯一の手がかりに周辺を探すことになった。（車のナビがこんなに便利なものと初めて知った。）2時間位周辺を捜索した結果、やっと、彼の記憶に残っていた建物の場所を発見することができた。その名は「S学園」であった。大きな公園近くの、緑深い木々に囲まれた広大な土地の中にその建物はあった。ずっと長い間探し求めていた住居をやっと発見できた喜びからか、彼の目にうっすらと光るものを感じた。

休日なので、彼が知っている人は誰もいなかった。当時、彼の面倒をよく見てくれた担当の先生は現在、学園長になってここで勤務していることが分かった。早速、連絡をとると運良く自宅におられ、すぐに駆けつけて来られた。

学園長と懐かしく昔のお話をしたり、当時の写真を取り出してきてくれたり、また、雨にもかかわらず、園内を案内くれたりして、あっという間に1時間が過ぎた。帰り際、学園長がS君に立派な学園記念誌（幼年時代のS君の写真が載っていた。）をプレゼントしながら、「こんなに立派に成長して、よくここに戻ってきてくれてありがとう。自分の経験を生かして、立派な家庭を築いてください。」と感慨深くおっしゃり、S君も握手を交わしながら、はっきり「分かりました。」と答えていた姿がとても印



with President of the National Defence Academy

象的だった。

興奮さめない中、次に、通っていた小学校に行った。歩いて10分、K小学校であった。(彼は住居から小学校までの道はよく覚えていた。)学校は、運動会が雨で中止になり、通常の授業が行われていた。(ここでも運がよかった。)宿直室で、訪問の訳を説明したら、奥から校長先生が出てこられ、親切に学校内の授業状況等を案内していただいた。彼の知る当時の先生は残念ながら誰もいなかった。小学校が見える近くのファミリー・レストランの2階で遅めの食事をとった。彼は小学校を眺め、昔を思い出しながら満足そうにスパゲティを頬張って食べていた。帰りの車の中で、妻が「今日は1日中雨で寒かったけど、S君の思い出探しのお手伝いが出来てよかった。いろいろと心温まる一日だったわね。」といった言葉にホスト・ファミリーとなって、彼との新たな出会いがあったことに満足しながら、「そうだね。」と応えた。

1ヶ月後、S君と訪れた、学園長から手紙が届いた。「先日は、S君を連れて頂き、大変感謝しております。立派に成人した彼を見て感激いたしました。私たちの仕事は単なる通過点ではあると思いますが、このような訪問はとても励みになります。お過ごしの中、ホスト・ファミリーとしての係わりも大変かと思いますが、S君にとってどんなにか心強いことでしょうか。これからも何らかの形で支えとなって頂ければ大変有難く思います。」と写真が添えてあった。

高橋理事(財務)記

### 勉強になったホスト・ファミリー

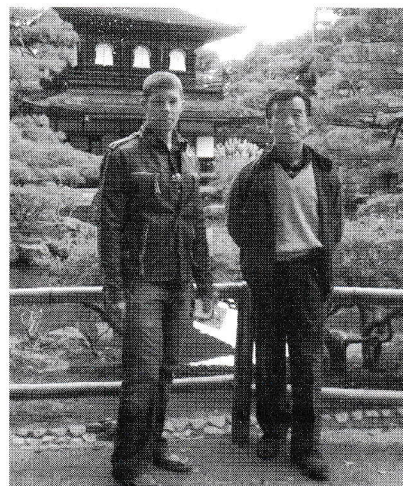
平成19年、8月から12月までの短期間、米空軍士官学校短期留学生のホスト・ファミリーを引き受け



with the Cadet of U.S. Air Force Academy

た。統幕学校の韓国留学生に続いて2人目であったが、大変勉強になった。今回の留学生は、米空軍士官学校3年生で、日本語があまり得意ではないということで、ネイティブ・イングリッシュを学ばせてもらい、また、短い期間であったが、自宅に招いたり、観光旅行したり、一緒に過ごす機会を通じ、アメリカの若者特有の考え方を体験する等、大いに勉強になった。留学生は、日本食が総て大丈夫で、特に「蕎麦」が大好きで、箸を上手に使ってざる蕎麦を食べるのを見て、少々驚いたが、食事の点では助かった。ホスト・ファミリーといっても、4ヶ月しかなかったことと、留学生は、防大の一般の学生と同じ生活になっており、週末しか自由時間が無かったため、1泊だけ、自宅に招いて、日本の典型的な団地に起居してもらい、その他は、都内観光1回。たまたま、京都家族旅行に便乗させて京都観光に連れて行った。往復の車中では、英語漬けということ、英語力向上に大いに役立った。小生も4ヶ月の米国短期留学の際に、米国の一般家庭の方にホスト・ファミリーをしていただいたが、家族と離れて海外に居住して、色んな支援をしていただくと、心から有難いと感じたことを思い出す。現在、空自幹部学校CS課程のタイ国留学生のホスト・ファミリーを引き受けています。彼は、防大に留学の経験があって、6年間の日本での生活に加えて、奥様が日本人ということで、日本語も巧みで、日本での生活には不自由は無いようである。今回は、タイの文化に接することが出来ればと、期待している。機会があれば、皆様も体験してみてもは如何でしょうか？

安宅理事記





## 第1号議案

## 平成19年度事業報告

(自平成19年4月1日～至平成20年3月31日)

## 第1 事業実績の概要及び会勢の現状

主要事業は、大学生の米軍基地研修支援を除き、概ね計画どおり実施し、JAAGA事業を通じて、航空自衛隊と米空軍との相互理解及び友好親善の増進に寄与できた。平成19年度末の会員数は、356（正会員245名、個人賛助会員51名、法人賛助会員52法人及び名誉会員8名）であり、19年度当初会員357から、正会員7名の減、個人賛助会員3名、法人賛助会員2法人、名誉会員1名の増となった。

## 第2 事業等の実施状況

## 1 日米隊員の激励等

## (1) 日米共同訓練参加隊員の激励等

19. 5.10 コープ・エンジェル (19. 5.14～ 5.18) に参加する那覇救難隊主体の隊員を織田航空支援集団司令官に託して激励した。(廣瀬、石黒理事)
19. 6. 8 コープ・ノース・ゲーム (19. 5.29～ 7.4) に参加する第3航空団、警戒航空隊の隊員を永田総隊司令官に託して激励した。(廣瀬、石黒理事)
19. 7.12 レッド・フラッグ (旧コープ・サンダー) (19. 7.4～ 8.2) に参加する隊員を中島総隊司令部防衛部長に託して激励した。(廣瀬、石黒理事)

## (2) 米空軍軍人の激励等

該当事項がなかったため、未実施

## (3) 日米隊員の表彰

20. 2. 8 那覇基地隊員クラブにおいて、第18戦闘航空団スマートオペレーション21のプロセスマネージャー ケネス・トラウィック先任曹長並びに那覇管制隊大城直志空曹長を優秀隊員として表彰した。  
来賓：山川南混団司令、半澤那覇基地司

令、ウィリアムズ18FW司令、仲本沖縄県防衛協力会顧問他基地周辺協力者6名

JAAGA参加者：竹河内会長、香川理事、石津沖繩支部長、名富事務局長、田口会員

20. 2.15 三沢基地隊員クラブにおいて、第35作戦支援群情報将校マイケル B.バードウェル少佐並びに6高群本部（三沢基地准曹会会長）仁和良一空曹長を優秀隊員として表彰した。

来賓：入澤北空司令官、若林三沢基地司令、オショーンネシィ35FW司令、山本三沢市自衛隊協力会会長他基地周辺協力者4名

JAAGA参加者：大串副会長、香川理事、小澤三沢支部長、山本事務局長

20. 2.16 横田基地米空軍年度優秀隊員表彰式において、米空軍第374空輸航空団ジョセフ R.ハドソン曹長並びに中警団司令部（人間基地代表准曹士先任）小竹康博准空尉及び保安管制群飛行情報隊前田誠2等空曹を優秀隊員として表彰した。

来賓：廣中入間基地司令、(ニューエル第374空輸航空団司令)

JAAGA参加者：山口副会長、阪東理事、岡村理事

## 2 日米隊員の交流等支援

米空軍、空自間の各種交換・交流活動等支援

## ① 日米下士官相互部隊研修に参加する日米隊員の支援

- 米軍の受け入れ基地：20. 1.31 ライト5空軍司令官に激励の品を手渡した。(廣瀬、榎、双石理事)  
嘉手納：7.20～ 7.26 空自から7名参加  
三沢：1.23～ 2. 1 空自から7名参加  
横田：2. 4～ 2.13 空自から7名参加

空自の受け入れ基地：20. 1.24 空幕人教部長に激励の品を手渡した。(廣瀬、石黒理事)

岐阜：2.28～3. 6 三沢基地から7名参加

入間：3. 3～3.10 横田基地から10名参加

那覇：3.19～3.27 嘉手納基地から6名参加

- ② その他要請に応じ日米交換幹部計画等米空軍空自交換・交流活動に参加する日米隊員の支援要請がないため、未実施

### 3 米空軍軍人の日本研修等支援

#### (1) 米空軍軍人の日本文化研修支援

19.11.27,28 賛助会員招待によるジェームズ副司令官ご夫妻以下7名参加の日光等史跡研修を堀、宇都宮理事が随行し支援した。

#### (2) 米空軍軍人の地域行事等支援

##### ア スペシャルオリンピックスの支援

19. 5.12 5.12,13の両日、横田基地で行われた関東スペシャルオリンピックスの開会式に廣瀬、榎、阪東の各理事が参加し支援した。

19. 6.24 カデナススペシャルオリンピックスの開会式に石津沖繩支部長が参加し支援した。

19. 9.22 ミサワスペシャルオリンピックス開会式に小沢三沢支部長が参加するとともに、山本事務局長が通訳兼ボランティアとして参加し支援した。

##### イ 米空軍人及び家族のねぶた祭り参加支援

19. 8. 4 35FW司令ご夫妻以下29名のねぶた祭り参加を三沢支部で支援した。(小沢三沢支部長、山本事務局長ご夫妻)

### 4 JAAGAと航空自衛隊・米空軍との交流

#### (1) SPORTEX'07

##### ア SPORTEX'07-A

19. 6. 1 多摩ヒルズにおいて米軍及び会員88名(米軍：38【3】、会員：50【4】)の参加を得て実施した。

※：【 】内はボランティア参加

##### イ SPORTEX'07-B

20. 3.20 多摩ヒルズにおいて米軍、空自隊員

及び会員109名(米軍：29【4】、空自：39、会員：41【5】)の参加を得て実施した。

※：【 】内はボランティア参加

#### (2) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇

19. 7.19 374空輸航空団司令兼横田基地司令の指揮権交代式(グッドウィン大佐→ニューエル大佐)に中司副会長、越智、榎、阪東の各理事及び石川会員の5名が出席した。

19.11.15 エバハート氏来日に伴う歓迎懇親会をG. H市ヶ谷において会員及び招待者約120名の参加を得て実施した。

20. 2. 4 ライト5空軍司令官の離任に伴う送別会をG. H市ヶ谷において会員及び招待者等約120名の参加を得て実施した。

20. 2.25 5空軍司令官の指揮権交代式(ライト中将→ライス中将)に竹河内会長、山口副会長、大串副会長及び遠竹理事長他8名の理事・会員並びに杉山、細、津曲、吉田の各顧問が参加した。

#### (3) 米空軍協会(AFA)総会への参加

19. 9.16～9.27遠竹理事長以下5名がAFA総会に参加するとともに、太平洋空軍司令部、ネリス空軍基地、国防総省等を訪問した。また、マイヤーズ大将ご夫人、エバハート大将ご夫妻、ホール中将ご夫妻、ワスコー中将ご夫妻の名誉会員の皆様と懇談し、旧交を温めた。

#### (4) 在日米空軍各基地との連携の強化

19. 8.25 横田基地友好祭に岡村、源理事並びに山岡、石川会員が参加した。

19. 9.21 米空軍創設60周年を記念する三沢基地エア・フォース・ボール07に山本三沢支部事務局長夫妻が参加した。

19. 9.22 米空軍創設60周年を記念する横田基地エア・フォース・ボール'07に阪東理事並びに山岡、石川会員が参加した。

19.12. 9 374空輸航空団司令主催のオープンハウスに安宅・岡村・阪東・源の各理事が参加した。

19.12. 9 嘉手納基地オープンハウスに石津沖繩支部長及び越智、榎、高橋の各理事が参加した。

19.12.15 5 A F 司令官主催のオープンハウスに竹河内会長以下5名が参加した。

19.12.15 三沢基地オープンハウスに小澤三沢支部長及び山本事務局長が参加した。

20. 1.20 福生横田友好協会主催の新年会に中司副会長以下4名が参加した。

(5) 米空軍慶弔への対応

グリーティングカードを64通送付した。

(6) その他

19. 4.23 市ヶ谷において行われたJANAFの総会に竹河内会長が参加した。

19.11.26 横須賀において行われたJANAFの秋期定例懇親会に遠竹理事長が参加した。

## 5 広報及び広報協力

(1) 日米要人等の講演

ア 空幕部長等の講演

19.11.15 講師：空幕防衛部長 平田空将補  
演題：米軍の变革と空自の防衛力整備  
聴衆：会員約100名

イ 米要人等の講演

19. 5. 9 (総会実施時) 講師：ライト第5空軍司令官  
演題：空自と米空軍の相互運用性の強化  
聴衆：会員並びに招待者  
約190名

(2) 米軍基地等の研修

19. 9. 4 研修団長田中氏以下30名(法人：19名、個人：11名)の賛助会員の横田基地研修を堀理事以下6名で支援した。

19.11.28～29 研修団長百合氏以下19名(法人：14名、個人：5名)の賛助会員の三沢基地研修を奈良理事以下5名で支

援した。

(3) 日米安保等に関する広報活動

ア 講演会等への講師派遣等

要請が無かったため、未実施

イ 米空軍に対する広報支援

米空軍(横田基地広報部)の要請が無かったため、未実施

ウ 大学生等の米軍基地研修支援

要請が無かったため、未実施

(4) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布

19. 7.26 32号 20. 2.28 33号を発行・配布した。

(5) 一般広報

① 関係広報誌等への投稿、情報の提供等を実施した。

② インターネット・ホームページを運営した。

③ JAAGAパンフレットを更新(JAAGA事務所の変更及び挿入写真の更新)した。

## 6 総会等

(1) 総会

19. 5. 9 グランドヒル市ヶ谷において、会員60名(委任状156名)の参加を得て総会を実施し、18年度事業報告、収支決算報告及び19年度事業計画予算、並びに、会則の一部改正、役員の選任等が承認された。引き続き、懇親会を約220名(招待者：日本側38名、米空軍52名を含む)の参加を得て実施した。

(2) アンケート調査

総会で会員から提言された正会員の行事参加に関する意向確認するため、アンケート調査を実施した。参加希望者は次のとおり。

指揮権交代式(横田)：22名

横田基地研修：21名

## 7 運営管理

(1) 会勢の拡大等

ア 支部の活性化等の推進

・支部の活動経費を確保し支部の活動の容易化を図った。

・会員確保の一環として長期会員の会費の再設定

の検討を行った。

イ 会員の拡大

各種機会を求めて会員の拡大に努めたが、正会員については減勢した。

正会員：245名（年初会員数：252名）（新規：15名、退会：22名）

個人賛助会員：51名（年初会員数：48名）  
（新規：7名、退会：4名）

法人賛助会員：52法人（年初会員数：50法人）  
（新規：4法人、退会：2法人）

名誉会員：8名（年初会員数7名）（新規ライト  
中将）

(2) 事務所機能の整備

ア 19. 6. 6 新生つばさ会との事務所共同使用覚

書等の締結を実施した。(6. 1付)

イ 20. 3.31 事務所における郵便物受領体制を整備し、私書箱利用の契約を停止した。

(3) 会員名簿の作成・配布

19. 7.26 本冊を配布した。

(4) 役員会及び常務理事会

ア 役員会

6.29、9.12、12.12、3.28

イ 常務理事会

4.26、5. 7（臨時）、5.28、7.26、10.30、11.28、1.23、2.28

(5) 監査

19. 4.16 18年度分の監査を実施した。

20. 4.21 19年度分の監査を実施した。

第2号議案

## 平成19年度収支決算報告書

(平成19. 4. 1 ~ 20. 3. 31)

(単位：円)

収 入			支 出				
区 分	予 算 額	執 行 額	予 算 科 目	予 算 額	執 行 額		
前 年 度 繰 越	4,899,882	4,899,882	事 業 費	共同訓練激励費	300,000	300,000	
年 会 費	4,015,000	4,887,585		激励慰問費	100,000	0	
利 息	500	2,806		表彰関係費	300,000	417,668	
寄 付 金	—	—		友好親善行事費	1,215,000	1,295,498	
雑 収 入	—	—		広 報 費	1,170,000	1,065,608	
				総 会 費	600,000	627,172	
				小 計	3,685,000	3,705,946	
				運 営 管 理 費	入会活動費	70,000	104,001
					名簿関係費	120,000	156,140
					役員会運営費	240,000	231,089
			支部運営費		100,000	100,540	
			事務所通信費		120,000	100,420	
			事務通信費		210,000	163,082	
			小 計	860,000	855,272		
			予 備 費	200,000	0		
			支 出 計	4,745,000	4,561,218		
			翌年度繰越	4,170,382	5,229,055		
合 計	8,915,382	9,790,273	合 計	8,915,382	9,790,273		

## 第3号議案

## 平成20年度事業計画

(自平成20年4月1日～至平成21年3月31日)

## 第1 事業運営方針

各種事業の着実かつ積極的な推進を図るとともに、引き続き、会勢の拡大等運営管理態勢の整備を推進する。

## 第2 実施事業等の概要

## 1 日米隊員の激励等

## (1) 日米共同訓練参加隊員の激励等

実施事項：日米共同訓練に参加する日米隊員の激励・慰問

対象訓練：コープ・ノース、コープ・エンジェル、レッド・フラッグ等

時期：日米共同訓練実施時

## (2) 日米隊員の表彰

表彰人員：三沢、横田、入間、府中、嘉手納、那覇等各基地日米隊員1名基準

実施基地：三沢、入間、那覇の各基地

時期：平成21年2月

## 2 日米隊員の交流等支援

米空軍、空自間の各種交換・交流活動等支援

① 日米下士官相互部隊研修に参加する日米隊員の支援

② 日米交換幹部計画等空自米空軍交換・交流活動に参加する日米隊員の支援

## 3 米空軍軍人の日本研修等支援

## (1) 米空軍軍人の日本文化研修支援

実施事項：賛助会員招待の日光等史跡研修支援

対象：米空軍軍人（夫妻等10名基準）

時期：平成20年10月

## (2) 米空軍軍人の地域行事等支援

ア スペシャルオリンピックスの支援

時期及び基地：5月17、18日（横田基地）2／

四半期（三沢基地）11月8日（土）（嘉手納基地）

イ 米空軍人及び家族のねぶた祭り参加支援

時期：平成20年8月

## 4 JAAGAと航空自衛隊・米空軍との交流

## (1) SPORTEX'08

ア SPORTEX'08-A

場所：多摩ヒルズ

参加者：会員及び米空軍軍人 約100名

時期：平成20年9月5日（金）

イ SPORTEX'08-B

場所：多摩ヒルズ

参加者：正会員、空自隊員及び米空軍軍人 約100名

時期：平成21年3月20日（金、祝日）

## (2) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇

対象基地等：三沢、横田、嘉手納、都内

時期：都度

## (3) 米空軍協会（AFA）総会への参加

実施事項：JAAGA名誉会員との交流

時期：平成20年9月

## (4) 在日米空軍各基地との連携の強化

対象基地：三沢、横田、嘉手納

実施事項：①各基地との緊密な調整、広報資料の提供等

②オープンハウス等各種基地行事への参加

## (5) 米空軍慶弔への対応

必要に応じて慶弔意を表すとともに、グリーティングカードを送付する。

## (6) 関係団体との交流

ア 日米ネービー友好協会総会等への参加

イ 福生横田友好協会との交流

## 5 広報及び広報協力

## (1) 日米要人等の講演

ア 空幕部長等の講演

時期：3／四半期

講師：空幕運用支援・情報部長

対象：正会員及び賛助会員

イ 米要人等の講演

時期：平成20年5月13日（火）（JAAGA総会時）

講師：在日米軍司令官兼第5空軍司令官 ライス中将

対象：正会員及び賛助会員、並びに招待者

(2) 米軍基地等の研修

実施事項：会員の米軍基地等における装備品、施設等の研修及び懇談・激励等

研修先基地及び時期：

①正会員：米軍横田基地研修：2／四半期

②賛助会員：嘉手納基地及び那覇基地：4／四半期

(3) 日米安保等に関する広報活動

ア 講演会等への講師派遣等

実施事項：部外者、学生等を対象とする講演会等に、会から講師を派遣又は米要人等の講師の派遣斡旋

実施要領：主催者側の計画（日時、場所、経費、その他）による。

イ 米空軍に対する広報支援

実施事項：米空軍が準備する広報記事を「だより」に掲載（「だより」紙面の提供）

実施要領：米空軍（横田基地広報部）との調整による。

ウ 大学生等の米軍基地研修支援

実施事項：主任教授等を通じた大学生等に対する米軍基地研修の紹介と研修支援

実施要領：研修者の希望に応じ、米空軍とその都度調整する。

(4) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布

発行回数：2回（7月、2月）

(5) 一般広報

ア 関係広報誌等への投稿、情報の提供等

イ インターネット・ホームページの運営

ウ パンフレットの増刷

エ JAAGAグッズの作成

6 総会等

(1) 日時：平成20年5月13日（火）

(2) 場所：グラントヒル市ヶ谷

(3) 実施事項：総会（参加者：正会員）

講演会（講師及び参加者：5（1）イのとおり）

懇親会（参加者：正会員及び賛助会員、並びに招待者）

7 運営管理

(1) 会勢の拡大等

ア 会員の拡大

目標：正会員300名、個人賛助会員50名維持、法人賛助会員50社維持

実施事項：協会のPR（面談、卓話、パンフレット配布等）及び入会案内

実施要領：① 会勢拡大のため、積極的に入会勧誘を実施

② 空自退官予定隊員に対しては退官時期に合わせて案内状を送付

③ 業務管理講習時等におけるPRの強化

イ 支部の活性化等の推進

引き続き、支部活動の活性化を推進する。

(2) 組織基盤の整備等

ア JAAGA事務所の運営

イ 備品類及び記念楯の整備

(3) 会員名簿の作成・配布

発行回数：本冊1回、修正表1回

時期：本冊（7月）、修正表（2月）

(4) 役員会及び理事会

ア 役員会

時期：四半期毎に1回（基準）

場所：グラントヒル市ヶ谷

イ 理事会

時期：役員会を開催しない月毎に1回（基準、8月を除く。）

場所：グラントヒル市ヶ谷

(5) 監査実施事項：20年度収支決算及びJAAGA事務備品の監査

時期：平成21年4月



## 第4号議案

## 平成20年度予算

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位：円)

収 入		支 出	
区 分	予 算 額	予 算 科 目	予 算 額
前 年 度 繰 越	5,229,055	共同訓練激励費	300,000
年 会 費	4,060,000	表彰関係費	450,000
利 息	2,000	友好親善行事費	1,195,000
寄 付 金	—	広 報 費	1,500,000
雑 収 入	—	総 会 費	400,000
		小 計	3,845,000
		運 営 管 理 費	
		入 会 活 動 費	70,000
		名 簿 関 係 費	120,000
		役 員 会 運 営 費	258,000
		支 部 運 営 費	100,000
		事 務 所 運 営 費	220,000
		事 務 通 信 費	180,000
		小 計	948,000
		予 備 費	200,000
		支 出 計	4,993,000
		翌年度繰越	4,298,055
合 計	9,291,055	合 計	9,291,055

## 第5号議案

## 正会員の年会費の一部改定

## 1 JAAGA正会員の年会費の一部改定

- (1) 年会費を7回以上納入した正会員については、年会費を4,000円とする。
- (2) 本改定は、平成21年度から適用する。

## 2 改定理由

会の発展のためには、活力ある新人正会員の入会を今まで以上に促進することはもちろんであるが、一方、本会の歴史と伝統を担ってこられた経験豊かな長期在籍会員の継続入会も必要な施策である。

そのため、長期在籍会員の年会費の減額により退会抑制を図るとともに、長年の活動を通じて、本会の運営・発展に貢献してこられた先輩正会員の功績に対して敬意を払うものである。



## 第6号議案

## 日米エアフォース友好協会会則の一部改正

下線部が今回の改正である。

## 第1条（名称）

本会を「日米エアフォース友好協会」(Japan-America Air Force Goodwill Association 略称「JAAGA」と称する。

## 第2条（事務所）

本会の本部を東京に置く。

2 三沢及び沖縄に支部を置く。

## 第3条（目的）

本会は、航空自衛隊と米空軍との相互理解及び友好親善の増進に寄与する事業を推進し、日米両国の信頼関係の向上に貢献することを目的とする。

## 第4条（事業）

本会は、次の事業を行う。

- (1) 航空自衛隊隊員及び米空軍軍人（以下、「日米隊員」という。）の激励等
- (2) 日米隊員の交流等支援
- (3) 米空軍軍人の日本研修等支援
- (4) 広報及び広報協力
- (5) その他、本会の目的達成のため必要な事業

## 第5条（会員）

本会は、次の会員で構成する。

- (1) 正会員：航空自衛隊OBで、本会の趣旨に賛同して入会を希望し、会長が入会を承認したものの。
- (2) 賛助会員：本会の趣旨に賛同し、本会の事業に協力する個人及び法人で、役員会の審議を経て会長が承認したもの。
- (3) 名誉会員：米第5空軍司令官経験者で、会長の入会要請に応じて入会を受諾したもの。

## 第6条（役員及び役員選任）

役 職	員 数	選 任
会 長	1 人	総会において、 <u>会員の中から選任する。</u>
副会長	3 人	同 上
理 事	<u>36人以内</u>	同 上

監 事	2 人	同 上
支部役員	各支部 2 人	同 上

本会の役員は、正会員によるものとし、その役職、員数、選任は次のとおりとする。

- 2 理事及び監事は、相互に兼ねることはできない。
- 3 役員の任期は、原則として2年とする。但し、再任を妨げない。
- 4 年度途中における理事及び支部役員の選任は、会長が暫定的にこれを行うものとし、総会において承認を受けるものとする。

## 第7条（役員の職務）

役員の職務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長が定めた順序に従い、その職務を代行する。
- (3) 理事は、役員会において、会務の主要事項について審議するとともにこの会則の定め及び役員会の議決に基づき会務を分担処理する。
- (4) 理事の会務の所掌分担は、会長が定める。
- (5) 監事は、資産、会計及び会務の執行状況を監査する。
- (6) 支部役員は、この会則の定め及び役員会の議決に基づき支部における会務を分担処理する。

## 第7条の2（本部及び支部）

本部に、理事長及び副理事長を置く。その員数、選任、職務は次のとおりとする。

役 職	員 数	選 任
理事長	1 人	理事の中から会長が委嘱する。
副理事長	1 人	同 上

- (1) 理事長は、会長の命を受けて会務を掌理する。

(2) 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるときは、その職務を代行する。

2 支部に支部長及び支部事務局長を置く。その員数、選任、職務は次のとおりとする。

役 職	員 数	選 任
支部長	各 1 人	支部役員の中から会長が委嘱する。
支部事務局長	各 1 人	同 上

(1) 支部長は、それぞれの地域における会務を分掌する。

(2) 支部事務局長は、それぞれの支部の会務を処理する。

#### 第 8 条 (顧問)

本会に顧問 (若干名) をおく。

- (1) 顧問は、正会員の中から会長が委嘱する。
- (2) 顧問は、会長が必要と認めた事項について、その諮問に応ずる。
- (3) 顧問を委嘱する期間は 2 年間とし、必要に応じ、再委嘱することができる。

#### 第 9 条 (会議)

会議は、総会、役員会及び理事会とする。

##### 第 9 条の 2 (総会)

総会は、正会員をもって構成する。

2 総会は、正会員の 3 分の 1 以上の出席 (委任状を含む。) により成立し、議決は、出席者の過半数の同意による。

3 総会の議決事項は次のとおりとする。

- (1) 事業報告及び決算の承認
- (2) 事業計画及び予算の決定
- (3) 役員を選任
- (4) 会則の変更
- (5) その他、本会の運営に関する重要事項

4 総会は、会長が招集する。

5 総会の議長は、会長がこれにあたる。

##### 第 9 条の 3 (役員会)

役員会は、会長、副会長、理事をもって構成する。

2 役員会は、構成員の 3 分の 2 以上の出席 (委任状を含む) により成立し、議決は、出席者の過半

数の同意による。

3 役員会の議決事項は次のとおりとする。

- (1) 総会の議決を要しない事項の承認
- (2) 総会に付すべき事項の承認

4 役員会は、会長が招集する。

5 監事、支部長、支部事務局長は、役員会に出席して意見を述べることができる。ただし、議決権は有しない。

#### 第 9 条の 4 (理事会)

理事会は、理事をもって構成する。

2 理事会は、理事長又は副理事長を含む理事の 3 分の 2 以上の出席 (委任状を含む) により成立し、議決は、出席者の過半数の同意による。

3 理事会の議決事項

- (1) 総会又は役員会で議決された事項の執行に関する事項
- (2) 役員会に付議すべき事項
- (3) その他、役員会の承認を要しない会務の執行に関する事項

4 理事会は、理事長が招集する。

#### 第 10 条 (会費及び会計)

本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(1) 年会費は、次のとおりとする。

正 会 員	: 5,000円
個人賛助会員	: 10,000円
法人賛助会員 (非営利法人)	: 20,000円
法人賛助会員 (企業法人)	: 50,000円

(2) 名誉会員の会費は納入を要しないものとする。

2 本会の資産は、財務担当理事が管理する。

3 本会の会計年度は、4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

4 事業計画及び予算が決定されるまでの間の事業については、暫定的に会長が、これを行うことができるものとし、総会において承認を得るものとする。

#### 第 11 条 (退会)

会員は、本人の申し出により、退会することができる。

2 会員に、本会の会員としてふさわしくない行為があった場合、会長は、役員会の審議を経て、この会員を退会させることができる。

3 2年間連続して年会費を滞納し、督促を受けてもなおこれに応じない場合は、会員の資格を失う。

#### 第12条（細則の制定）

この会則に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は、役員会の審議を経て、細則として定めるものとする。

2 支部の運営要領については、それぞれの支部長

が定めることができる。

#### 第13条（その他）

本会は、「新生つばさ会」の附属組織として、次の事項を、新生つばさ会に報告等するものとする。

- (1) 会則の変更
- (2) 組織の重要な変更
- (3) 年度事業計画及び年度事業報告

附則：この会則は、平成20年5月13日から施行する。

#### 第7号議案

## 役 員 の 選 任

職 名	氏 名		
会 長	遠竹郁夫（新任）		
副 会 長	清水正睦（新任）、森 和彦（新任）、越智通隆（新任）		
理 事	理 事 長	廣瀬紀雄（理事としては再任）	
	副理事長	内山好夫	
	企 画	奈良信行（再任）、石黒正昭、安宅耕一、堀 好成、小川剛義（新任）	
	総 務	香川清治、岡本秀夫、鈴木直人	
	渉 外	山本隆之、阪東政詮、松井 健、新井洋一（ケ）、岡村雄司（新任）	
事 務	会 員	鬼塚恒久（再任）、新井洋一、正岡富士夫（再任）、	
	広 報	双石芳則、源外志明（再任）、高橋健才、原田千敏、高杉直明（新任）	
	財 務	稲葉憲一（新任）、北村善信、高橋健二	
理 事	榎 利美、宇都宮靖、四ッ家邦紀		
監 事	橋本康夫（新任）、高島秀雄（新任）		
支部役員	支 部 長	小澤満昭（三沢）	石津 靖（沖縄）
	事務局長	山本親男（三沢）	名富忠夫（沖縄）

【退任】 会 長 : 竹河内 捷次  
 副会長 : 山口 利勝、大串 康夫、中司 崇  
 理 事 : 尾崎 利夫  
 監 事 : 平田 伸成、川田 哲雄

顧問の新規委嘱	竹河内 捷次様、山口 利勝様、大串 康夫様、中司 崇様
---------	-----------------------------

## … 新入会員紹介 …

### 1 正会員

氏名	住所	氏名	住所
新谷 哲次	東京都西東京市	辻 章嗣	茨城県守谷市
丸山 泰	青森県三沢市	千原 眞靱	東京都あきる野市
松田 和彦	東京都中野区		

### 2 個人賛助会員

氏名	住所	氏名	住所
祖父江 重夫	東京都福生市	高間 茂樹	埼玉県川越市

### 3 法人賛助会員

法人名	住所	法人名	住所
三沢市自衛隊協力会		住重特機サービス(株)	
アグスタウェストランド日本支社			

## 会 員 募 集

今期は関係各位のご努力で正会員5名、個人賛助会員2名の計7名の入会を得ることができました。会勢拡張目標を正会員300名、個人賛助会員50名、法人賛助会員50社と定め精力的に活動しておりますが、正会員数が247名(20. 7.1 現在)とはるか目標に達していません。今年度の総会では会勢拡張についての貴重なご意見を賜りました。今後、理事会で具体的方策について検討してまいります。

今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人会員の入会につきましては、次のとおりです。

推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当係から連絡させていただきます。

#### 【入会資格】

正 会 員 : 航空自衛隊のOB

個人賛助会員 : 航空自衛隊のOB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

#### 【連絡先】

【郵便】〒162-0842 新宿区市谷砂土原町1-2-34 KSKビル3F

日米エアフォース友好協会 会員担当 行

【電話：メール】 新井 洋一：新東亜交易(株) 03-3286-0339 yo-arai@sda.shintoa.co.jp

鬼塚 恒久：三井生命保険(株) 03-3213-0270 onitsune@w5.dion.ne.jp

正岡富士夫：三菱重工業(株) 03-6716-4319 fujio\_masaoka@mhi.co.jp

## 編 集 後 記

読者の皆様、暑中お見舞い申し上げますとともに、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。JAAGAの20年度事業は、本部の新陣容のもと、順調に進捗しております。「だより34号」の編集に当たりましても、新鮮な息吹を吹き込んで、表紙の刷新及び記事の配列に工夫を凝らしてみました。また、日米優秀隊員の空自基地での表彰、ホスト・ファミリーの受け入れなど、新しい取り組みについて記事に紹介しておりますので、ご一読いただければ幸いです。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

(編集子)